

第5編

教育

生涯を通じて学び

豊かな心を育むまちづくり

第1章 次代を担う人づくり

5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進

第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備

5-2-1 生涯学習の推進と学習環境の整備

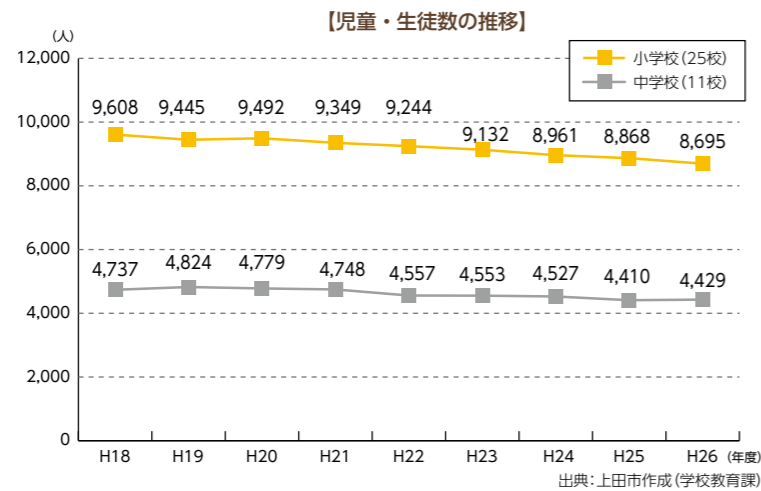
5-2-2 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進

子どもたちの学びの環境を充実し、教員・学校の教育活動や家庭・地域の教育力の充実に向けた支援を推進します。

現状と課題

- 多様で変化の激しい社会の中で子どもたちが自立的に生きていくためには、「自ら学び、考え、行動する力」を身につけることが重要です。
- いじめや不登校などの課題に対し、学校は教員と児童・生徒との信頼関係を築き、規範意識や社会性を育む指導とともに、未然防止と早期発見・早期対応に取り組むことが必要です。
- 学校には発達や身体などに障がいのある児童・生徒が在籍しており、特別支援教育を着実に進めていく必要があります。
- 核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、「地域の子どもは地域で育てる」地域ぐるみの教育が必要です。
- 小中学校施設の耐震化は平成28年度でほぼ完了しますが、建築後50年以上経過する校舎などについては、計画的な改築・改修が必要です。
- 統廃合を含めた学校の適正規模・配置の検討においては、地域の実情や特性とともに、一定規模の集団確保などに配慮する必要があります。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(平成32年度)
特色ある学校教育の取組に対する市民満足度	20.5% (平成26年度)	25%
地域に開かれた学校づくりに対する市民満足度	32.2% (平成26年度)	50%

各主体に期待される主な役割分担

家庭	・PTA活動などに積極的に関わり、家庭教育を充実させます。
学校	・学力の向上を図り、家庭や地域との連携を密にした学校運営を推進します。
地域	・児童・生徒の育成に地域ぐるみで取り組みます。
事業者	・児童・生徒の職業観を養い、将来の自立に向けた職場体験の受け入れを推進します。
行政	・各主体と連携・協力しながら、地域ぐるみの教育環境整備を目指します。

施策の方向性・展開

基本施策1 確かな学力や生きる力を育む教育を推進します

- ①少人数学級、習熟度別授業、小中が連携した授業の推進**
 - 小中学校30人規模学級編制*や少人数学習集団編成*などによるきめ細やかな指導を行います。
 - 小学校では、理解度や習熟度にばらつきの多い教科において、少人数指導教員の配置や習熟度別授業を取り入れ、児童の理解度や習熟度の向上を図ります。
 - 中学校に市費教員を配置し、小学校へ出向いて授業を行うことで、中学進学への不安解消と学習意欲の向上を図ります。
- ②社会の変化に対応した幅広い教育の推進**
 - 教員の英語指導力の向上と小中高大が連携した取組、小学校へのALT*の派遣などにより、コミュニケーション能力を高める実践的な英語授業に取り組みます。
 - 国際的視野に立った異文化理解を深めるため、中学生の海外交流事業を実施します。
 - 小中学校の情報環境を整え、教員の効果的な情報機器の活用や授業改善を支援します。
 - 児童・生徒の職場体験学習などのキャリア教育*を推進し、将来への夢を育み、確かな職業観を持ち、地域の産業に対する関心を高めます。
 - 環境学習を推進し、児童・生徒の豊かな感性や環境を大切にすることを育みます。
- ③学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善**
 - 学力検査などの結果を分析し、教員の指導力向上と授業改善に生かします。
 - 授業がわかり、楽しくなるよう、児童・生徒が自ら計画を立て、授業と関連づけた家庭学習を行う習慣づくりを進めます。

基本施策2 きめ細やかな個に応じた指導を行い、すべての子どもの学びを支援します

- ①幼保小中の連携によるスムーズな成長支援**
 - 「幼保・小」及び「小・中」の連携強化を図り、「小1プロブレム*」、「中1ギャップ*」を解消し連続した子どもの発達を切れ目なく支えます。
- ②いじめ・不登校などの問題に悩む児童・生徒への支援**
 - 市いじめ問題対策連絡協議会の連携を強化し、各学校の不登校対策指導委員会やいじめ等対策支援チームを中心に、いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応を図ります。
 - 心の教室相談員*の配置、スクールカウンセラー*及びスクールソーシャルワーカー*の派遣、教育相談所と家庭、学校、ふれあい教室などの連携により、きめ細やかに対応します。
 - 対応が適切になされるよう、カウンセリングマインド研修*を行うなど、全ての教職員や保護者が学ぶ機会を充実します。
- ③特別な支援が必要な児童・生徒への支援**
 - インクルーシブ教育*システムの構築を目指し、教職員の共通理解を深める取組を推進します。
 - 障がいを持つ児童・生徒が生活上及び学習上の困難を克服し、持てる力を高めるソーシャルスキルトレーニングの研究を進めます。
 - 支援ノート「つなぐ」を活用するとともに、発達相談センター、教育相談所、特別支援教育コーディネーター*連絡会の連携を強化し、乳幼児から学童、青年期まで成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。
- ④外国籍児童・生徒への適応支援**
 - 集中日本語教室「虹のかけはし」において、バイリンガル*の指導員により、基礎的な日本語を指導し学校への早期適応を支援します。
 - 外国籍児童生徒支援員や日本語教育指導員を学校などに派遣し、学習、配付文書の翻訳、保護者相談などの支援を行います。
- ⑤人権教育の実施**
 - 子どもたちが「自分や他人の大切さを認めること」、「人に優しい行動・態度をとること」ができるよう、人権尊重精神を育みます。

⑥食育の推進と地産地消の学校給食の充実

- 学校給食を通して、郷土の食材や伝統ある食文化を学ぶとともに、家庭での望ましい食習慣が身につくよう働きかけます。

基本施策3 学校、家庭、地域が連携し子どもの教育に関わる体制を構築します

①地域に信頼され、地域とともにある学校づくり

- 保護者や地域住民の理解と参画を得ながら、学校ごとの創意工夫による特色ある学校づくりを行います。
- 地域の教育力を活用して、学校の実情に合わせたコミュニティ・スクール*の指定や土曜日の教育活動*の導入を検討し、子どもたちに多様な学習や体験の機会を提供します。
- 学校評価や授業評価を実施し、各学校が改善の取組や目指す目標を設定し、ホームページなどで公表します。

②学校・家庭・地域の連携の強化

- 学校支援に関わるコーディネーターやボランティアの発掘・育成を図り、学校のニーズに応じ、地域ぐるみの支援を進めます。
- 子どもが放課後や週末に安心して過ごせる居場所づくりを進めるために、地域住民との交流やさまざまな学習・体験の機会を設けます。
- スマートフォンなどの情報端末やインターネットを利用した犯罪と、ネット依存の危機から青少年を守るため、児童・生徒、保護者に対する情報モラルの啓発を行います。
- 地域住民、少年補導委員、関係団体の協力を得て、街頭での見守りや声かけ活動を推進します。
- 教育の原点である家庭教育を支援し、人とのふれあいや思いやりの心を大切に人間形成の基礎を培います。
- 地域の実情に合わせて連絡会・推進会議などの協力を得ながら、子どもたちを健全に育成する活動を推進します。

③ふるさとに愛着を持つ人間性豊かな子どもの育成

- 地域の自然や文化に触れ、自然との共生や歴史などを学ぶ機会を増やします。
- 育成会や分館の活動を支援し、子どもたちが体験活動や世代間交流に参加する機会を設け、生きる力や地域への関心を高める取組を推進します。

基本施策4 時代に対応した安全で安心な小中学校施設・設備の整備を進めます

①計画的な小中学校施設整備の推進

- 経過年数や老朽化の度合いを総合的に勘案し、改築改修計画に基づく整備を進めます。
- 教員住宅は、民間住宅の活用などにより、地域の実情に応じて計画的に廃止し、管理費節減を図ります。

②学校の適正規模・適正配置の検討

- 地域の実情や特性を踏まえながら、通学区の見直しや学校の再編を検討します。

③給食施設の計画的改修・更新、業務の民間委託化

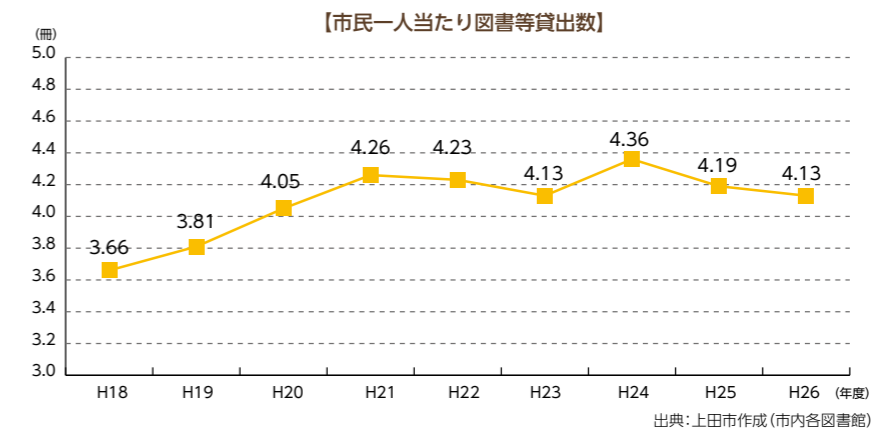
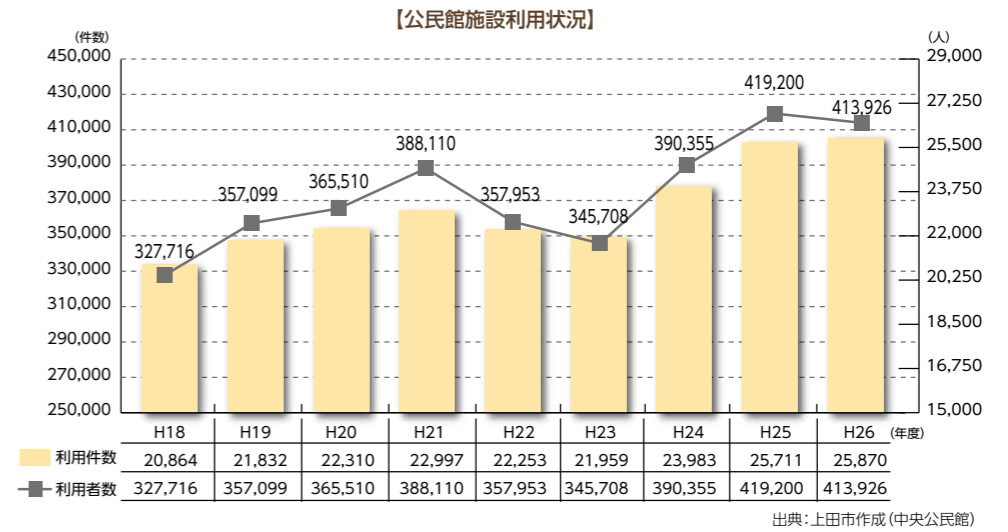
- 学校給食運営の基本方針に基づき、改修・更新を計画的に進め、将来にわたる安定的な給食の提供と食育を推進します。
- 上田市民間活力導入指針に基づき、学校給食の質の維持や食育の推進、費用対効果など総合的な面から給食業務の委託化を検討します。

5-2-1 生涯学習の推進と学習環境の整備

市民一人ひとりのニーズに応じた学習の機会と環境を充実し、誰もが生涯にわたって学び成長することができる地域をつくります。

現状と課題

- 市民の多様化・高度化するニーズに対応した生涯学習*の機会を提供していくことが求められています。
- 誰もが学びやすい環境づくりに向けて、公民館や図書館、博物館などの社会教育施設の整備が必要となっています。
- 社会教育*の振興を通じて住民自治に寄与する公民館では、地域住民の主体的な学習活動を積極的に支援していく必要があり、市民一人ひとりが学んだ成果を地域のまちづくり活動やボランティア活動に生かしていけるような環境づくりが求められています。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(平成32年度)
公民館施設利用件数	25,870件 (平成26年度)	26,000件
生涯学習環境が整っていると感じる市民の割合	34.4% (平成26年度)	40%

各主体に期待される主な役割分担

市民	・学んだ知識や技能を地域のまちづくりに生かします。
生涯学習団体など	・自ら学び、また市民へ学習機会を提供します。
大学など	・研究成果などを市民の学習や地域づくりに生かします。
行政	・学習環境の整備を進め、市民主体の学習活動を支援します。

施策の方向性・展開

基本施策1 誰もが生涯にわたって学び成長できるよう、生涯学習の振興を図ります

①生涯学習機会の充実

- 生涯学習基本構想を策定し、生涯学習の振興施策を総合的かつ計画的に推進します。
- 公民館や図書館などにおける講座やプログラムの充実、生涯学習団体*の育成や支援、大学などとの連携を通じて多様な学習機会を提供します。
- 社会教育施設を利用する学習グループなどへの情報提供や活動の支援を通じて、学びを通じた仲間づくりや交流を促進します。
- 生きがいづくりや生涯学習の場の提供を通じて、まちづくり活動に資する人材の育成に努めます。
- 学んだ知識や技能を活用する機会や発表する機会の拡大を図ります。
- 地域住民の主体的な学習活動を支援するため、地域の魅力発見の取組や地域課題を学習する機会を充実させ、市民のまちづくり活動の実践につなげていきます。

②生涯学習環境の整備

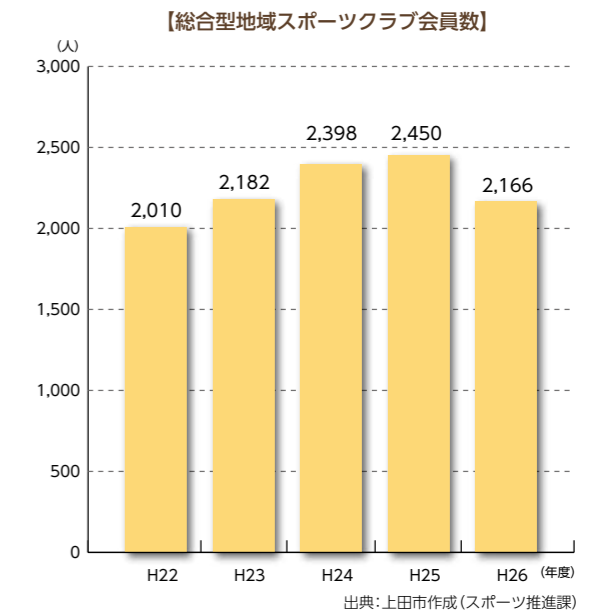
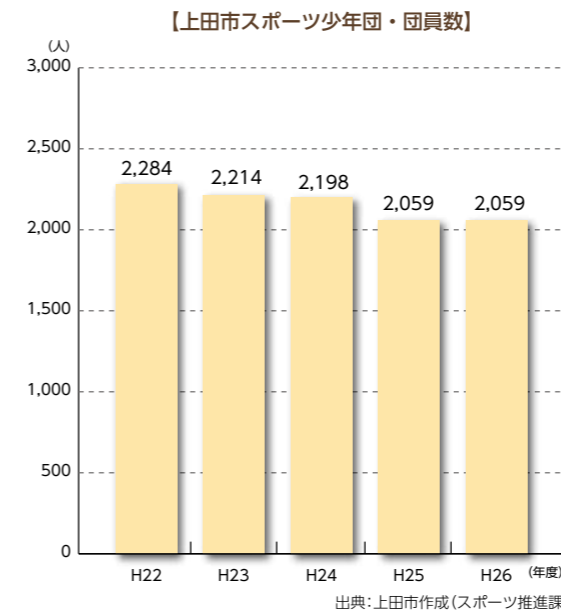
- 老朽化などが進む社会教育施設の計画的な整備と管理運営や職員体制の検討を進めます。
- 図書館のあり方、配置などに関する第二次図書館基本構想を策定し、構想に基づく図書館の施設整備を行うとともに、市民協働による新たな図書館運営を目指します。
- 図書の本棚化*を進め、市民サービスの向上を図ります。
- 子ども読書活動推進計画に基づき、ボランティアと連携した読み聞かせ活動や子どもの読書活動を充実します。
- 専門的な知識、技能、経験を持つ地域の人材情報を一元化し、地域づくりや学校の活動に生かします。
- 教育委員会、大学等で開催する各種講座などの生涯学習情報を一元化し、市民に提供します。

5-2-2 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

「上田市スポーツ振興計画」に基づき、体力向上や健康づくりの機会を拡大するとともにスポーツ環境の整備を促進し、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

現状と課題

- ライフスタイルが変化し、健康づくりへの関心が高まる中、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりを進めていく必要があります。
- 多様なスポーツ・レクリエーションや競技スポーツ振興を図るため、スポーツ施設の整備を計画的に進める必要があります。
- 今後開催される国際スポーツ大会に向け、各国ナショナルチームの事前合宿や高地トレーニングの適地として、菅平高原への誘致を積極的に進める必要があります。
- 上田市から世界の舞台で活躍する選手が育つことを視野に入れ、優れた競技者を発掘し、応援する体制づくりが重要です。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（平成32年度）
総合型地域スポーツクラブ*会員数	2,166人 （平成26年度）	2,600人
スポーツ環境が整っていると感じている市民の割合	34.4% （平成26年度）	40%

各主体に期待される主な役割分担

市民	・スポーツ活動やイベントに積極的に参加します。
スポーツ団体・事業者など	・市民がスポーツに親しめる機会を提供します。 ・指導者の育成や派遣を行います。 ・世代間交流や地域交流を広げます。
行政	・気軽にスポーツに親しめる環境を整えます。 ・競技スポーツの振興を図ります。

▶ 施策の方向性・展開

基本施策1 体力向上・健康づくりの機会拡大を図ります

① スポーツ環境の充実

- 「上田市スポーツ振興計画」に基づく施設整備の基本計画を策定し、スポーツ施設の整備を計画的に進めます。
- スポーツ施設の休場日利用や体育館などの学校体育施設の開放を進め、身近なスポーツ施設を地域の実情に応じて効率的に活用します。

② 生涯スポーツ活動の推進

- 上田市体育協会*などのスポーツ団体や企業との連携協働のもと、各種スポーツ大会やスポーツ教室を開催し、生涯スポーツへの参加機会の拡大を図ります。
- 市民の健康づくりを推進する協働のパートナーとして、誰もが気軽に参加できる「総合型地域スポーツクラブ」の加入者の増加を図るため、活動を広く周知する啓発活動、指導者の育成、クラブ間連携などを支援します。
- スポーツ少年団活動などへの支援を通じてスポーツやレクリエーションの場を提供し、子どもたちの健全育成を図ります。

基本施策2 競技スポーツの強化に取り組みます

① 指導体制の充実と競技者育成

- スポーツ団体などと連携のもと、有望な人材の発掘や練習環境の整備など、競技者を育てる環境づくりを推進します。
- スポーツ指導者の資質向上のための研修会などを開催し、指導体制の充実を図ります。
- 全国大会などに出場する選手・団体に対し、奨励金を支給し支援します。

基本施策3 地域特性を生かしたプロスポーツ競技などの誘致や交流促進を図ります

① プロスポーツ競技などの誘致及び交流の促進

- プロスポーツ競技の市内開催と菅平高原や温泉地などの地域特性を生かしたスポーツ大会・合宿などの誘致を進めます。
- ラグビーワールドカップ日本大会、東京五輪・パラリンピックに向けた、各国ナショナルチームの事前合宿地誘致を進めます。
- 子どもたちがプロスポーツ選手やオリンピックメダリストなどのトップアスリートから直接指導を受ける機会を設けるなど、将来の夢を描くことができる取組を推進します。